



各地の様々な事例の教科書掲載場面

学習から興味や関心を広げていくコラム！

「〇〇の窓」！

各分野、窓のテーマは本当に多様で個性的です。窓を開けてテーマから吹き込む風で、個別最適な学びが深まるように期待しています。



共通

公民の窓 森・海・川の再生へ

「森は海の恋人」を合言葉に、森・海・川を一体のものとして再生していく「漁民の森運動」が、全国で盛んに行われています。林業の衰退とともに、経済的な理由から手入れされなくなってきた森林からは、栄養豊富な水を川や海に供給することができません。そこで漁師の人たちは、流域に住む人々と協力して森に木を植えたり、スギやヒノキの生育作業を手伝ったりしています。一方、森林に暮らす人々も漁場を訪れ、森と海がお互いにとって大切な存在であることを実感する交流が行われています。



大漁旗を掲げて植樹する (2017年 岩手県一関市)

↑p.187(公民)

地理の窓 シラスを生かした環境対策

鹿児島県は、シラスを地域資源の一つとして利用するために研究を重ね、シラス製のコンクリートや瓦、ブロックなどを開発しました。シラスブロックには、保水性が高く、表面温度が低いという特性があります。鹿児島県は、夏の気温上昇をおさえるための対策の一つとして市電の軌道にシラスブロックと芝生を組み合わせた緑化を行っています。これには都市の景観にうるおいを与え、騒音を弱める効果も認められています。シラスブロックは軽いため、ビルの屋上緑化にも利用できます。シラスを原料とした、生活に役立つ製品の開発が今後も期待されています。



緑化された路面電車の軌道敷 (2022年 鹿児島県鹿児島市)

↑p.177(地理)

歴史の窓 オホーツク文化と擦文文化

樺太(サハリン)から根室半島、千島列島にかけてのオホーツク海沿岸の地域には、5世紀ごろから、漁や、アザラシ・トド・クジラなどの狩猟を営み、犬や鹿を飼って生活を営む人々が現れました。この地域の人々は、独自の特色をもつ土器を作り、9世紀ごろまでの間、オホーツク文化を形づくっていました。また同じころ、北海道から東北地方の北部にかけて、木片でこすった文様がある土器を使用する擦文文化が形づくられました。漁や狩猟、採集、粟や稗などの農耕を主業とする擦文文化は、13世紀ごろまではアイヌ文化へと発展していきました。



海の動物の骨で作られたクマの像 (洞爺湖国立博物館)

↑p.81(歴史)

これまで学んだことを、少し違う視点から捉え直したり、さらに一歩踏み込んで深めたり、そんな『窓』になることを願っています。



読み解きが楽しくなる資料

思わず読み解きたくなる資料を大きく鮮明に掲載し、情報活用能力を育みます。



↑p.96-97「江戸図屏風」(東京都)

歴史

今の自分とつながる資料

過去と現在を比較したり、現在まで残る文化を知ることで、生徒が歴史を身近に感じられるよう工夫しています。



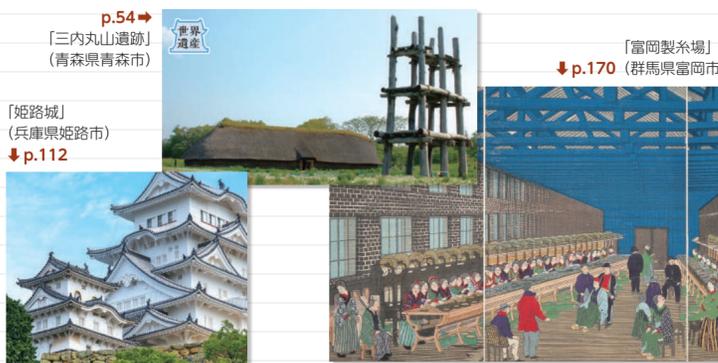
↑p.176「沖縄の郷土料理」



↑p.252「1945年、2022年の東京都 銀座」

日本が誇る世界遺産

世界遺産も多く取り上げ、伝統・文化とその保存活動への関心につなげています。



p.54「三内丸山遺跡」(青森県青森市)

↓p.170「富岡製糸場」(群馬県富岡市)

「姫路城」(兵庫県姫路市) ↓p.112



↑p.82「室町時代と現在の祇園祭」(京都府京都市)

生徒が実感しやすいような、具体的な街の様子や人々の暮らしの資料を多く掲載しています。



ダイナミックな写真資料



↑p.262「知床五湖の高架木道」(北海道斜里町)

地理

ダイナミックな写真としてだけでなく、社会との関わりなど、多様な視点から読み取ることができる資料を取り上げています。

社会に生きる人々の営み



↑p.224「9月に行われるレタスの収穫」(長野県南牧村)

資料と地域の声を合わせ、関わる人の顔や営みが見える事例を扱っています。



高原レタスを生産する農家の森さん

東京の市場の賑りに間に合わせるために、夜明け前の暗いうちから収穫を始めます。レタスは手で収穫するので手伝ってくれる人が必要です。昔は大学生の人たちがアルバイトに来ることも多かったけれど、今は外国人研修生の人たちに手伝ってもらった農家もあります。

地域の特色が表れた資料を掲載し、生徒の興味・関心だけでなく、疑問や気づきを引き出すことができます。

見方・考え方の視点が活きる

地域の特色が写真を比較することで際立って見えてきます。



↑p.154「2月の様子」(左:沖縄県今帰仁村、右:山形県山形市)



「今」を映す

世の中の「今」を学べる、時勢に配慮した事例を扱い、現在の姿や課題を意識することができます。



↑p.183「焼失後の整備が進む首里城」(沖縄県那覇市)



↑p.233「開通が迫る芳賀・宇都宮LRT」(栃木県宇都宮市) ※今後、開通後の最新の写真に更新予定です。

迫力ある写真資料から捉える

興味・関心を高める導入写真から、多面的・多角的な視点を養えます。



「むろと鹿校水族館」(高知県室戸市) ↓p.116

「未来」につなげるアクションを知る

「いのちをつなぐ未来館」の想い

2011年3月11日に発生した大地震と大津波は、東日本を中心に多くの人々に被害をもたらしました。岩手県釜石市で2019年に開館した「いのちをつなぐ未来館」は、東日本大震災のできごとや教訓を後世に伝え、次世代をなつ子どもたちを主な対象とした防災学習施設です。大震災の記憶や教訓とともに、過去の経験から取り組まれてきた、独自の防災学習などを紹介する展示スペースがあり、企画展、ワークショップ、語り部の活動などが開催されます。地元の小・中学生や地域住民をはじめ、修学旅行生や企業研修の受け入れなど、市内外からの来館者に防災学習体験プログラムを提供しています。



被災地に建てられた「いのちをつなぐ未来館」



語り部の話を聞く学生たち

公民

↑p.27「いのちをつなぐ未来館」(岩手県釜石市)

多様な姿を学ぶ

人々のさまざまな姿から、多様な文化や考え方が学べます。



↑p.54「東京レインボープライド2022」(東京都渋谷区)



↑p.51「民族共生象徴空間「ウポポイ」」(北海道白老町)

身近な地域の写真を通して、現代社会の課題を捉えやすくしました。

